

# とまちゃん通信

角ともこ県議会レポート

2011.4.April Vol.16-3

## がんばろう日本 岩手でボランティア活動

3月11日、東日本を襲った大震災は沿岸部を中心に甚大な被害をもたらしました。連日、新聞・テレビで報道される状況に全国の皆さんが何かしなければという思いを寄せています。民主党島根県連でも募金活動とボランティア活動に取り組みました。

### ♥災害救援ボランティア隊

民主党島根県連のボランティア



募集で集まった10人で4月16日から20日までの5日間、陸前高田市でボランティア活動を行いました。

現地までは、救援物資を積んだトラックとボランティアが乗ったバンで約20時間かけていきました。

東北自動車道を一関インターで降り、山間を縫って行くのと、突然景色が一変し、瓦礫が川沿いに散乱している光景が広がりました。

(裏へ)

### ♥女性の視点 生活者の立場で元気な島根づくり 〜安心で安全な生活を守ることを第一に〜

4月1日に島根県議会議員選挙が告示されましたが、私の選挙区である松江市では、定数10に対し10人の立候補の届け出しかなく、その日のうちに、無投票で当選が確定しました。午後6時から、選挙事務所での当選の報告会となり、駆けつけた皆さんに祝福していただき、引き続き活動を続ける決意を述べました。

きことを訴えてきました。そして、震災復興に向けて、島根がその力になれるよう元気であればならいことも皆さんに伝えてきました。これからの4年間、女性として、生活者としての視点を活かし、安心して暮らせる島根づくりに全力で取り組みますので、引き続きのご支援よろしくお願い致します。

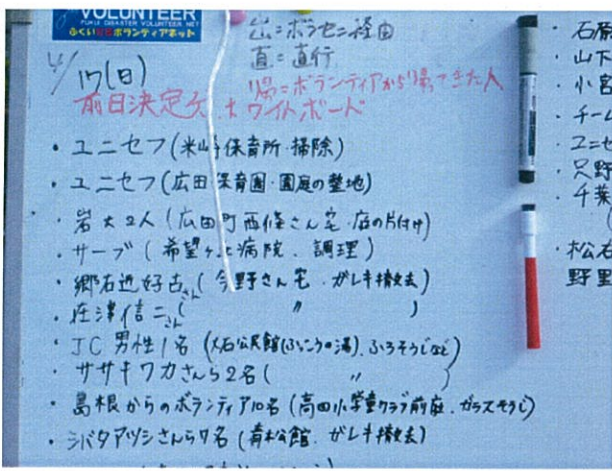
ことに、今回は東日本大震災が発生し、さらには福島原発事故が起こり、一日も早い震災復興と原発事故の終息が、我が国の大きな課題となっています。自粛ムードの中の選挙戦ではありましたが、私はこの選挙を通じて、島根県の防災計画の見直しと島根原発の安全性についての再点検、今後のエネルギー政策について、県民の皆さんの声をしっかりと受け止めて議論すべ





海辺にある市街地は鉄筋立  
ての建物の外側が残っている  
だけで、周りの建物の跡形もあ  
りません。すでに道の瓦礫が除  
けられ、車が走れるようになって  
います。中心部の瓦礫の片付  
けも始まっていますが、それは  
まだほんのわずかです。

トラックに積み込んできた  
卵や野菜などの救援物資を災  
害本部となっている給食セン  
ターに届けました。担当の方か  
らは、食材はいくらあってもう  
れしいと喜ばれました。  
私たちが依頼された作業は、  
児童クラブの庭のガラスの破  
片の取り除きと、農家のりんご  
畑の瓦礫の撤去。



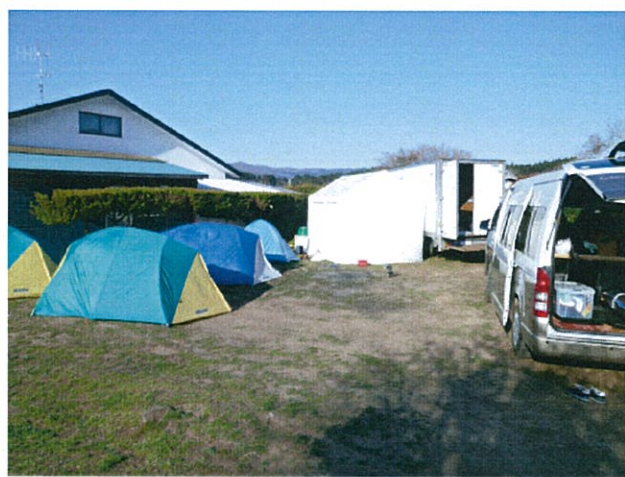
傾斜地にあるりんご畑の途  
中まで津波が押し寄せ、屋根や  
梁、家財などが散乱、一段下の  
りんご畑には船や自動車もあ  
り、その段に瓦礫を寄せる作業  
でした。



### ♥さまざまなお心の中で♥

作業中、打ちよせられた車の  
ほうに向かって瓦礫を投げる  
ことはやめてほしいとの苦情  
がありました。理由はよくわか  
りませんでした。私たちには  
単に瓦礫の山としか映らない  
ものでも、被災者の皆さんにと  
ってはそれぞれに思い入れの  
ある品々もたくさんあって、そ  
れが無造作に扱われることへ

の抗議だったかもしれませぬ。  
アルバムやカメラ、パソコン  
などの品は別にしてボランティア  
アセンターの方に託けました  
が、まだまだ瓦礫の中には皆さ  
んにとって貴重な品があるかも  
しれません。一瞬にして瓦礫と  
化してしまったことにどんなに  
つらい思いをしていらっしやる  
のか、私たちには推し量る術も  
ありません。



私たちは、近くの空き地を貸  
していただき、テントを張りま  
したが、近所の人たちが電気を  
引いてライトや温風ヒーターま  
で貸してくださったり、山水を  
引いた水道やお手洗いを貸して  
くださったりと、逆に私たちが



お世話になりました。

夜、ご主人がテントに来られ  
「今日やつと電気が届くように  
なり、今夜は家族みんな喜んで  
いる」と話されました。今回の  
津波で息子さんを亡くされたそ  
うですが、ここに住むものは皆  
同じ境遇だからと、余り詳しい  
ことは話されませんでした。悲  
しみを乗り越えようと努力され  
ているように感じました。

こちらには、親戚の2家族が  
避難されていて、奥さんを亡く  
された男性は、毎日家があった  
ところへ行つて仲間と再建に向  
けての話をしているとのこと。  
お子さん連れの若夫婦は仕事場  
を失ったが、勤めていた会社の

仕事ができるようになり遠野市  
へ行くとのこと。皆さんそれぞ  
れに前に向かって歩み始めてい  
らっしゃいます。

### ♥活動を終えて♥

2日間の活動を終え、現地3  
日目にはテントを撤収し、お世  
話になった皆さんにご挨拶し、  
余ったレトルト食品や米、水な  
どをボランティアアセンターに渡  
し、帰途に着きました。

わずか2日間のボランティア  
活動でしたが、現地に行つて改  
めて津波の被害の大きさを実感  
し、復興に向けて皆さん一生涯  
命になっていること、全国各地  
からボランティアの人たちが入  
ってきていることなどを知りま  
した。

私たちの力は微々たるもので  
すが、それでも行政機関の復興  
作業では手が回らないところも  
たくさんあり、ボランティアな  
どの支援が必要だということを  
痛感しました。被災者の皆さん  
が少しでも早く生活が再建でき  
ることを祈り応援します。